

防災メモ

火山観測施設(3: 磐梯山)

仙台管区気象台火山監視・情報センター(以下、火山センター)では、地震計による震動観測、GPSによる地殻変動観測、遠望カメラによる遠望観測及び空振計により、磐梯山の火山活動の常時観測・監視を行っています。

気象庁では1965年7月に磐梯山山頂の南東約1.8kmに地震計を設置し、震動観測を開始しました。この観測点(A点)は、2000年11月に観測施設を更新し、観測を継続しています。また、2000年春から地震活動が活発化したため、臨時に地震計を増設して観測を強化しており、現在は長坂、裏磐梯、湯平山、八方台、清水平を含めた6カ所で震動観測を行っています。これらの地震計によるデータは、火山センターに全て伝送され観測・監視が行われています。

GPSによる地殻変動観測は新しい観測方法で、火山体の膨張や収縮など広範囲な地殻の変化を観測するために行われています。磐梯山では、2000年春の地震活動活発化に伴い、観測を開始しました。現在は長坂、裏磐梯高原、猫魔、西磐梯、猪苗代の5カ所に機器を設置し、火山センターで観測を続けています。

遠望観測は、1965年7月、若松測候所から目視により噴気や噴煙の観測が始められました。その後、1996年4月に、現在位置(北塩原村内)に遠望カメラを設置して観測を継続しており、現在は火山センターで観測を行っています。

また、2000年8月に裏磐梯震動観測点に空振計を設置し、観測を開始しました。その後、A点や湯平山震動観測点にも設置しています。通常、空振計は悪天時や夜間における噴火現象の確認などに利用されています。



磐梯山火山観測点配置図



GPS 観測装置(猪苗代観測点)



遠望観測点からの映像



震動観測点(磐梯山A点)